



【共通】

◆生育状況について

生育は、昨年より7～10日程度進んでいる。

◆当面する重点作業について

1. 新梢・徒長枝が伸びているので、適正に整理する。
2. 樹体が日焼けで傷まないように保護する（新梢を置く・ワラを巻くなど）
3. 適時にかん水を実施する。降雨が多い場合は、排水対策を実施する。
4. アメリカシロヒトリは巣網のうちに捕殺するか、焼却処理する。
5. 薬剤散布を適期に実施する。

【プルーン・すもも】

◆スモモヒメシンクイの防除対策について《重要》

1. 薬剤防除：定期防除は、散布間隔を守りしっかりと散布ムラなく、量をしっかりと掛ける。
2. 耕種的防除：園内をこまめに巡回し、樹上の被害果・落果した被害果をすべて見つけ処分する。
3. 処分方法
 - 1) 被害果を園外に持ち出し、7日以上水漬けし果実中の幼虫を殺す。
 - 2) 土中に埋める場合は、1m以上深く埋める。浅いと羽化し、再び発生するので注意する。
 - 3) 厚い肥料袋等に被害果を入れ、羽化成虫が外に飛び出さないよう口を固く結ぶ。レジ袋等は不可。
 - 4) 放任園や自家用で、防除しないプルーン・すもも等発生源を伐採してもらう。
4. 被害果の特徴
 - 1) アメをだす。
 - 2) 果面に地図を描く。
 - 3) 果面が黄色や紫色に変色。
 - 4) 落果している。

◆灰星病対策について

被害果を見かけ次第（降雨の前に）除去し、園外へ持ち出すが土中に埋め、被害果を触った手で他の果実に触れないようにする。

◆第13回薬剤散布について

1. 散布時期：7月31日（金）～4日（火）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当たり・10a当たり散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
（展着剤まくぴか）	10,000倍	10ml	—	—
（ミギワ20フロアブル）	2,000倍	50ml	前日	灰星病
Ⓜバリアード顆粒水和剤	2,000倍	50g	前日	シンクイムシ類

◆第14回薬剤散布について

1. 散布時期：8月10日（月）～14日（金）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当たり・10a当たり散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
（展着剤まくぴか）	10,000倍	10ml	—	—
Ⓜカナメフロアブル	4,000倍	25ml	前日	灰星病
ディアナWDG	5,000倍	20g	前日	シンクイムシ類

◆第 1 3 ・ 1 4 回薬剤散布共通留意事項について

3. 散布上の留意事項

- 1) 収穫中の品種には、薬液が飛散しないよう注意し散布する。
- 2) 散布の際、ブルームの流れ、雫による葉斑軽減のため細かい霧で実施する。
- 3) 収穫直前の品種は、定期薬剤散布に代えて別記の収穫前薬剤散布を行う。
- 4) 展着剤を「まくぴか」10,000 倍(水 100ℓ 当り 10ml)にすると、均一に付着しやすくなり、乾きが早まるため、液だまりが減少する。
- 5) 降雨が多い場合は、第 1 3 回にミギワ 2 0 フロアブルを加用散布する。
- 6) カナメフロアブルに代えて、パレード 1 5 フロアブル 3,000 倍(水 100ℓ 当り 33ml)を使用してもよい。

◆収穫前薬剤散布について

1. 散布時期：収穫開始2日前

実際散布月	日	月	日
-------	---	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量 1 0 0 ℓ 当り・1 0 a 当り散布量：4 0 0 ℓ 以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
オンリーワンフロアブル	2, 0 0 0 倍	5 0 ml	前日	灰星病

3. 散布上の留意事項

- 1) 「収穫前日」とは、収穫 2 4 時間前までに散布が終了している事を意味する。
- 2) オンリーワンフロアブルに代えて、オーシャインフロアブル 3,000 倍（水 100ℓ 当り 33ml・収穫前日）又はアンビルフロアブル 1,000 倍（水 100ℓ 当り 100ml・収穫前日）を使用してもよい。

◆中晩生種の収穫及び出荷講習会開催について

下記日程により、開催致しますので、ご参加ください。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
8 月 1 1 日	火	午前 1 1 : 0 0	篠ノ井 西部流通センター	徳武
			若穂 若穂果実流通センター	寺澤

※川中島・更北地区は、地区担当果樹技術員まで。

※講習会以降が出荷始めではありません。適熟になったものは、講習会以前でも荷受致します。

また、未熟な場合は、適熟になってからご出荷下さい。

【あんず】

◆コスカシバ対策について

杏の場合は、6～10月まではっきりしたコスカシバの最盛期がなく、被害樹は樹勢が弱まったり胴枯病が発生しやすくなる。樹脂と虫糞の混ざっている箇所の表皮を削り補殺するか、木づちで叩いてつぶす。（雨上がりが良い）

【なし】

◆当面の管理について

1. 南水栽培園は、防鳥ネットの設置を行う。(収穫1ヶ月前)

◆栽培日誌の提出について

梨（日本・西洋なし）の出荷予定者は、栽培日誌を配布致しますので、下記期日までに提出下さい。

1. 提出期限：8月7日（金）まで
2. 提出場所：直接個人で各流通センター・共選所まで
3. 留意事項

1) 梨の場合は、有袋栽培用と無袋栽培用が別の用紙（収穫前基準が異なるため）となりますのでご注意ください。

2) 第11回防除まで記入下さい。漏れ・不備のないように記入下さい。

3) 栽培日誌をチェックし、法的に問題がある場合は販売できません。

4) 提出されず出荷された場合は、安全性が確認出来ないので荷受できません。

◆第12回薬剤散布について

1. 散布時期：8月10日（月）～14日（金）

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：4000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病虫害
展 着 剤	10,000倍	10ml	—	—
オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	前日	黒斑病・黒星病
エ ク シ レ ル S E	5,000倍	20ml	前日	シンクイムシ類・ハマキムシ類